



OWNER'S MANUAL

オーナーズ・マニュアル

【安全にご使用いただくために】

本紙には、シェクター製品を正しく安全に弾いていただくための注意事項が記載されています。ご使用前に必ずお読みください。また、エレクトリック・ギター、ベースを快適な環境で維持していただくための重要事項も記載されていますので、ご使用中は本紙を保管していただきますようお願いいたします。

★エレクトリック・ギター、ベースの取り扱いについて

- ◎ストラップを使用する場合は、ストラップの装着部が確実に固定されていることをご確認ください。
- ◎演奏中にエレクトリック・ギターやベースを振り回したり、乱暴な取り扱いをすると、ストラップが外れて落下したり、他者を傷つけるなど思わぬ事故や怪我の原因になりますので、絶対にお止めください。
- ◎ピックアップやコントロール部分の正しくない交換や改造は、故障の原因となりますので、必ずお買い求めの楽器店にご相談ください。

★電気による事故や怪我を防ぐために

- ◎雨や雷の時は屋外での演奏は避け、また、屋内で演奏する場合も、湿気の多い場所でエレクトリック・ギターやベースをアンプ、エフェクターなどの外部機器に接続して使用すると、落雷による火災や感電をすることがありますので、ご使用の際には天候、湿度などに十分ご注意の上、安全な環境でご使用ください。
- ◎エレクトリック・ギターやベースを演奏中に雷が発生した場合、屋外はもちろん、屋内でも、すぐに演奏を中止し、アンプからプラグを抜いてください。直接の落雷はもちろん、近い場所に落雷した場合でも、コンセントに高圧が発生し、演奏者が感電する可能性がありますので十分にご注意ください。

★弦による事故や怪我を防ぐために

- ◎弦の交換や調整をする時は、顔を楽器に近づけ過ぎないようにしてください。弦が切れて目や顔を傷つけるなど、思わぬ怪我や事故の原因となる場合もありますので、注意して行ってください。
- ◎交換した後は、弦が糸巻きからあまり長くはみ出さないよう、不要な部分を短かめに切ってください。弦の先端は鋭利になっていますので、怪我や事故の原因になる場合もあります。また、お手入れの際などにも、弦の先端部には十分に注意して安全に行ってください。

★安全な保管方法について

- ◎エレクトリック・ギターやベースをアンプを使用しない時は、火気の近くや高温多湿の場所を避け、ケースに入れるか、専用スタンドなどを使用して、安定した状態で保管してください。火災や地震、または何らかの原因で落下・転倒することを防ぎ、破損や怪我などの原因をつくらないようにしてください。
- ◎ケースの中に楽器専用の乾燥剤などを入れて保管しておくこと、理想的な湿度を保つことができますのでお勧めします。

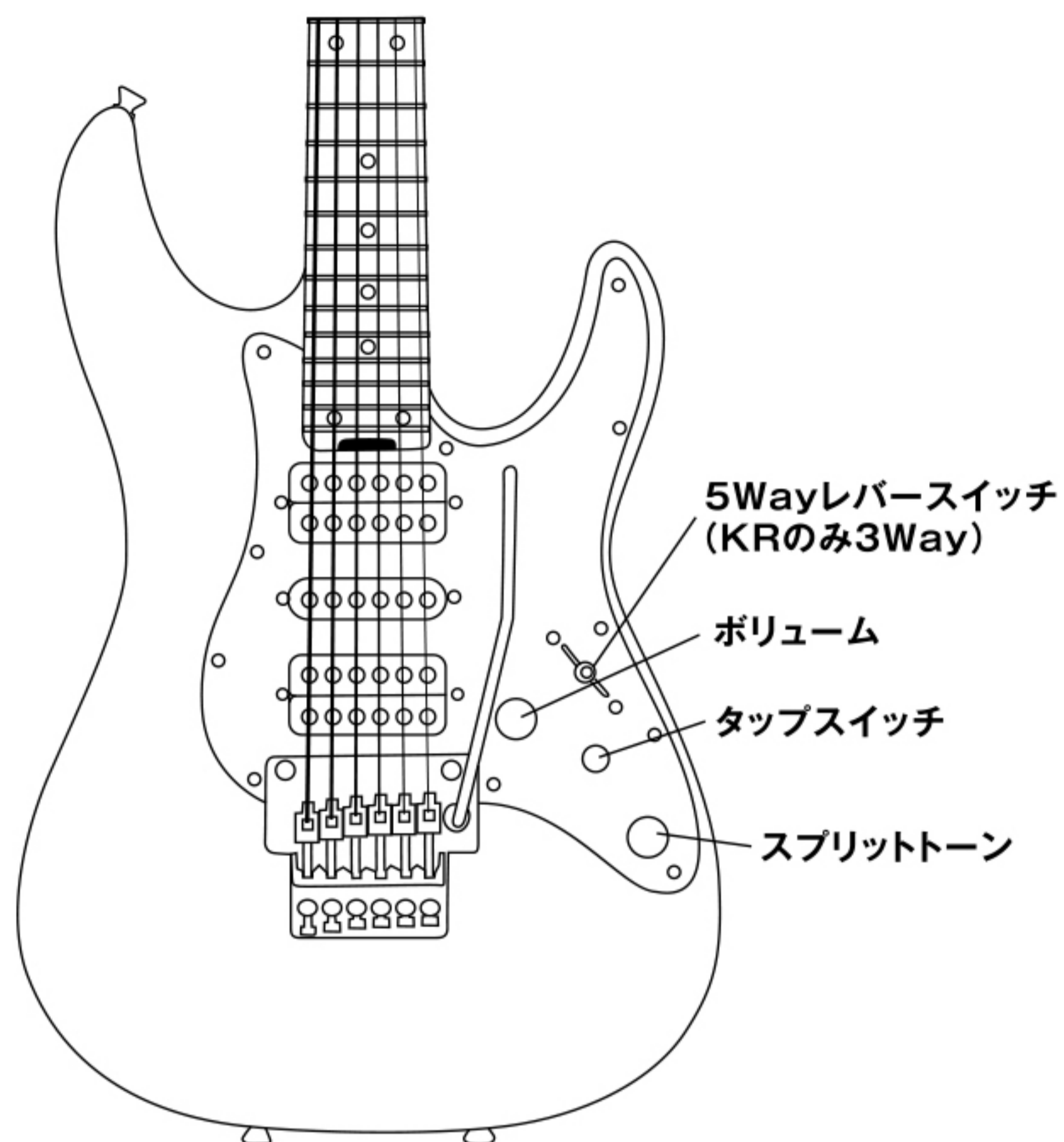
★乾電池の使用法・廃棄について

- ◎乾電池を使用するモデルは、指定サイズの乾電池を使用し、極性を正しく合わせてセットしてください。長時間使用しない場合は、必ず乾電池を外してください。装着したまま放置すると、乾電池のバッテリー液が漏れ出し、電気回路が故障する原因になる場合もありますのでご注意ください。
- ◎使用後の乾電池は、各自治体の規定に従って廃棄してください。その他のゴミと一緒に出したり、火気に投じるなど、危険な行為は絶対にお止めください。

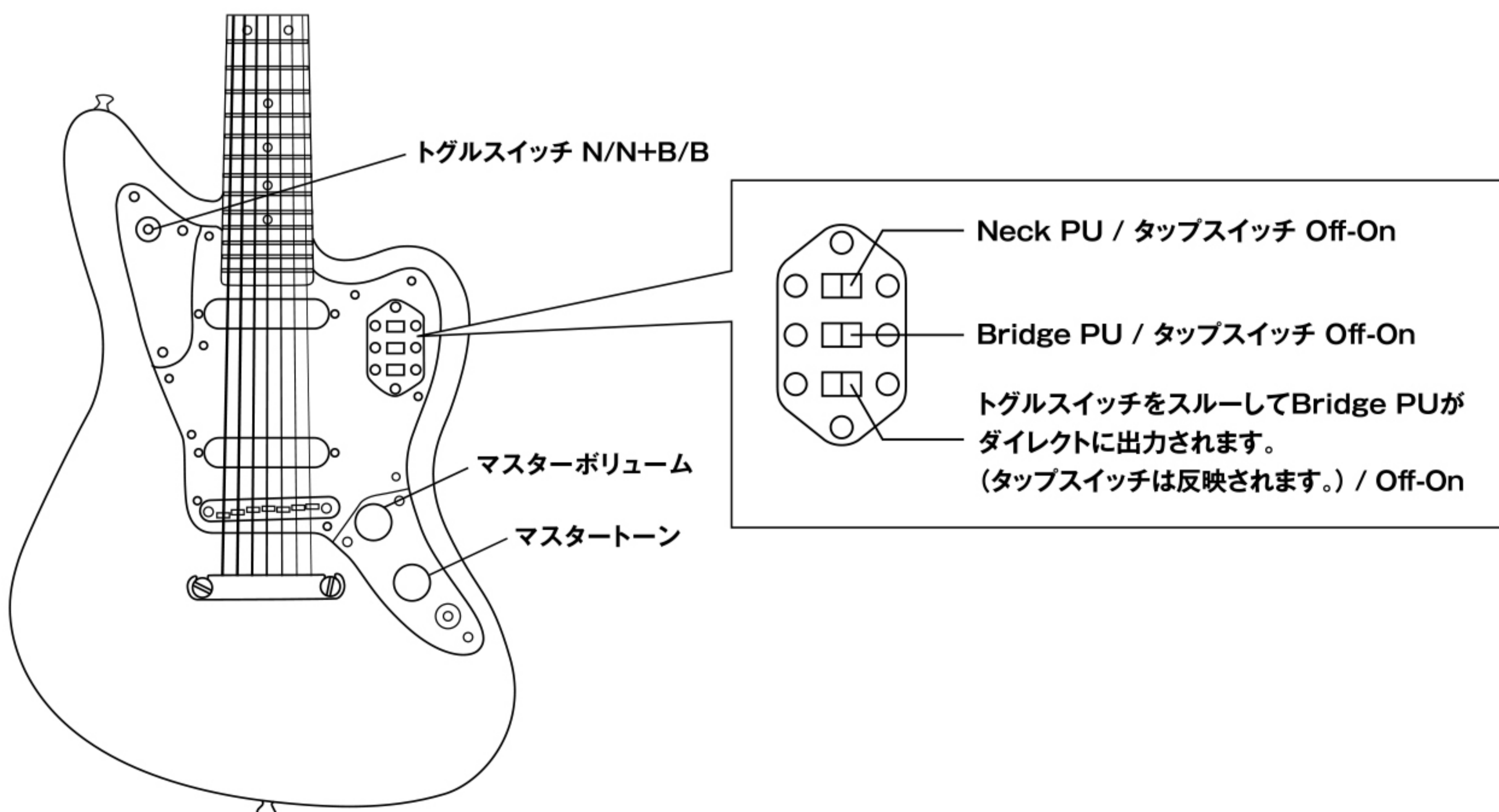
★メンテナンス(効果的なお手入れ)の方法について

- ◎演奏後は、パーツの錆を防ぐため、弦の裏側やフレット、ブリッジサドルやナットに付着した汗や脂を、専用クロスまたは乾燥した柔らかい布で丁寧に拭き取ってください。
- ◎ただし、ボディーやネックの塗装面の汚れを拭き取る場合は、塗装面に悪影響を与えるので、揮発性の薬品や研磨剤は使用しないでください。こびり付いた汚れは、楽器専用ポリッシュを染み込ませた布または専用クロスで丁寧に拭き取ってください。
- ◎塗装仕上げが施されていない指板面は、専用クロスまたは指板用オイルや良質のレモンオイルなどを少量含ませた柔らかい布で拭いてください。また、フレットも時々ほこりを払い、同じように軽く油を含ませた柔らかい布などで拭いてください。

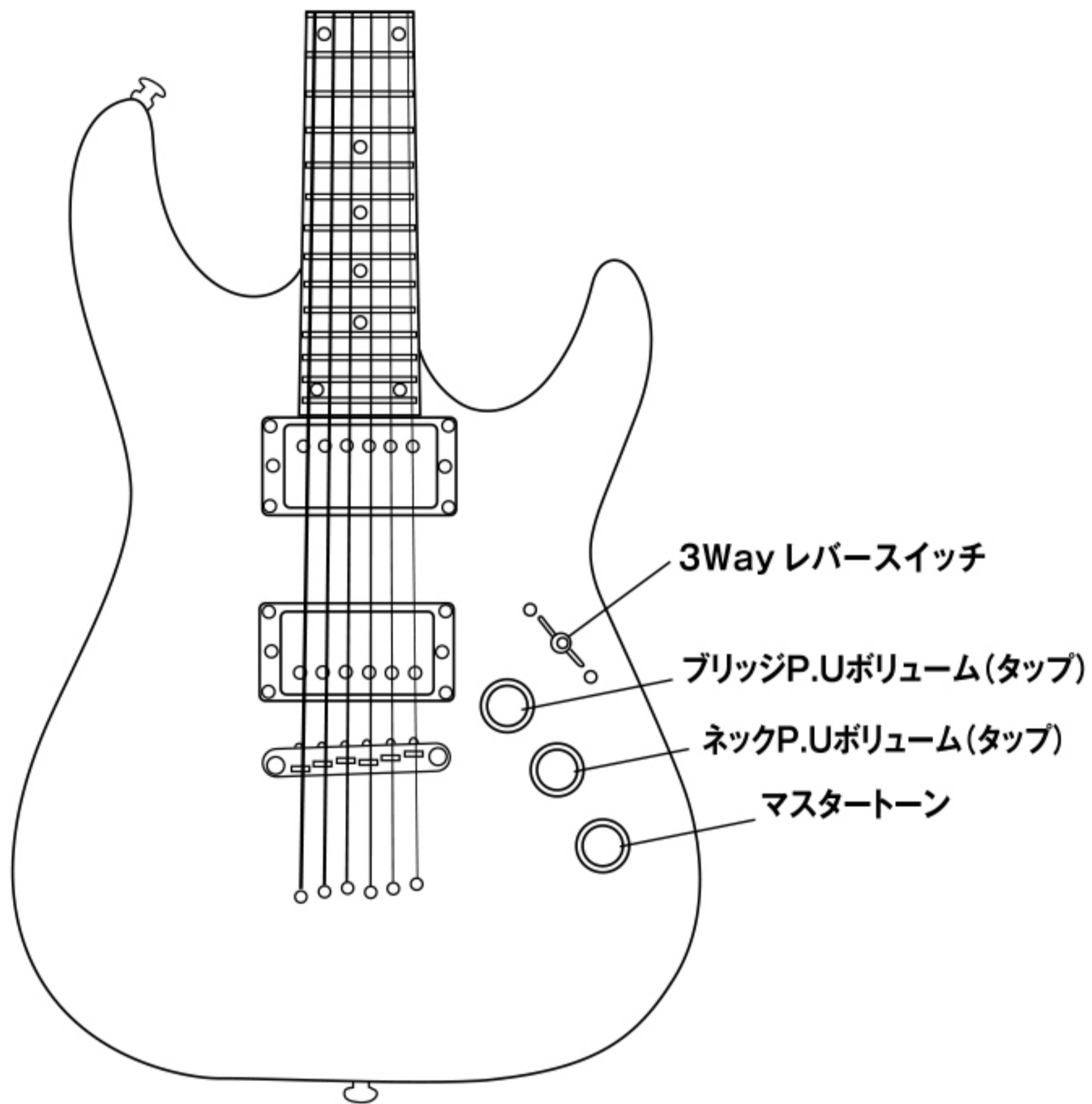
**BH-1-STD-24、SD-DX-24-AS、SD-2-24-AL、NV-DX-24-AS
NV-3-24-AL、KR-24-2H-FXDのコントロールについて**



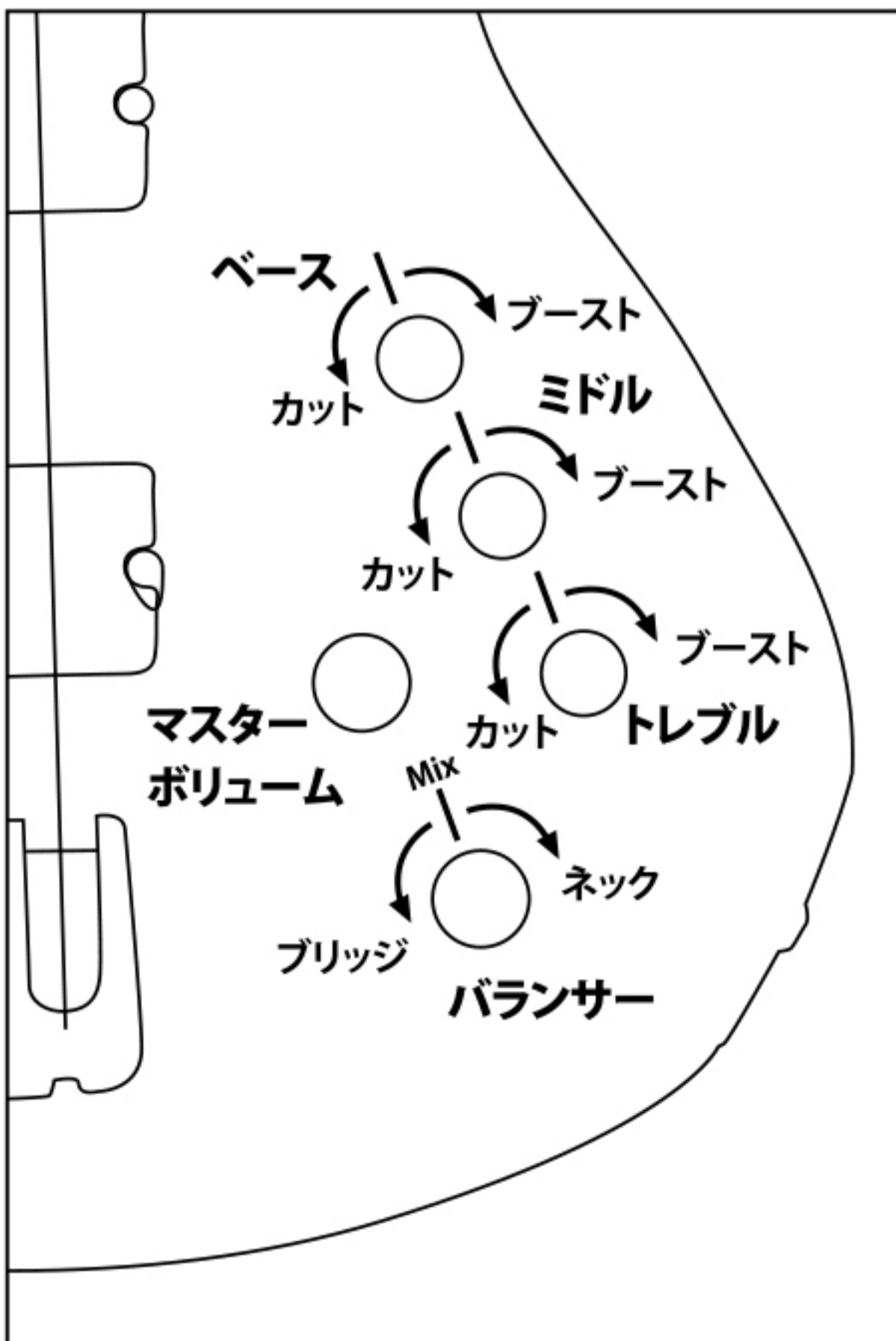
ARシリーズのコントロールについて



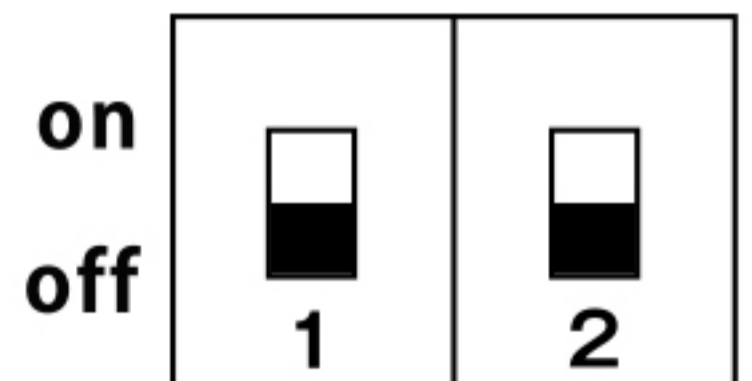
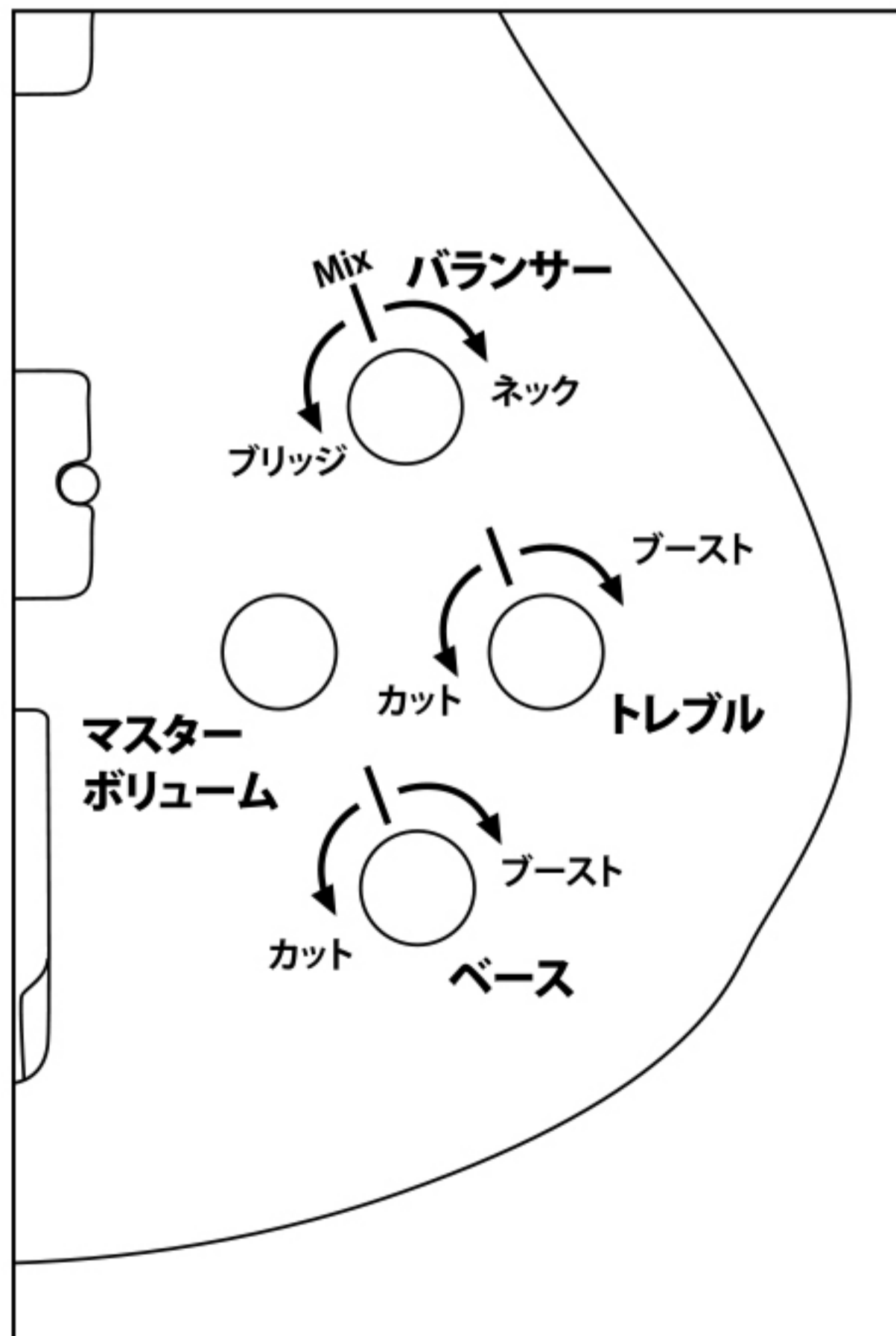
DIAMONDシリーズ 2Vol. 1Toneのコントロールについて



3Band EQ EMG-B64-EQ



2Band EQ EMG-BTSコントロール



1	2	周波数
on	on	2.1kHz
on	off	3.5kHz
off	on	4.5kHz
off	off	7.0kHz

★ネックについて

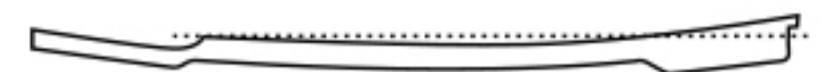
◎ネックには弦の張力がかかっているため、チューニング状態や弦のゲージの変化、また、温度や湿度の変化によって、反り具合が微妙に変化することがあります。そのため、ネックはアジャストナットを回すことで、反り具合を微調整できる仕組みになっています。調整するためには、まず、正しくチューニングし、演奏時の状態でギターを持ちます。そして、1弦の1フレットと16フレットを同時に押さえた状態で、8フレット部での弦とフレットのすき間を計ります。同様に低音弦側でも同じ測定を行い、それぞれのすき間が、およそ0.3mm~0.4mmになることを目安に、わずかな「順反り」状態に調整します。ネックの形状やボディとのジョイント方法によって症状はさまざまですが、弦高が高く、高音部の弦ビリつきがひどくなり、オクターブが合いにくい場合は、ネックが順反りし過ぎている可能性があるため、このすき間が大きくなります。弦高が低くなって低音部の弦のビリつきや音づまりが発生する場合は、ネックが「逆反り」状態になっている可能性があるため、すき間が小さくなります。見た目の判断だけでなく、症状に合わせた調整が必要です。

◎アジャストナットは、ヘッド側(モデルによってはトラスロッドカバーの内部から)ネックの付け根側に取り付けられています。エレクトリック・ギター、ベースに付属の六角レンチやドライバーなどを使用して、アジャストナットを右方向に締め込むほど、ネックは逆反りし、左方向にゆるめるほど順反りになります。四分の一回転をひとつの目安に、少しずつチューニングと調整をくり返してください。

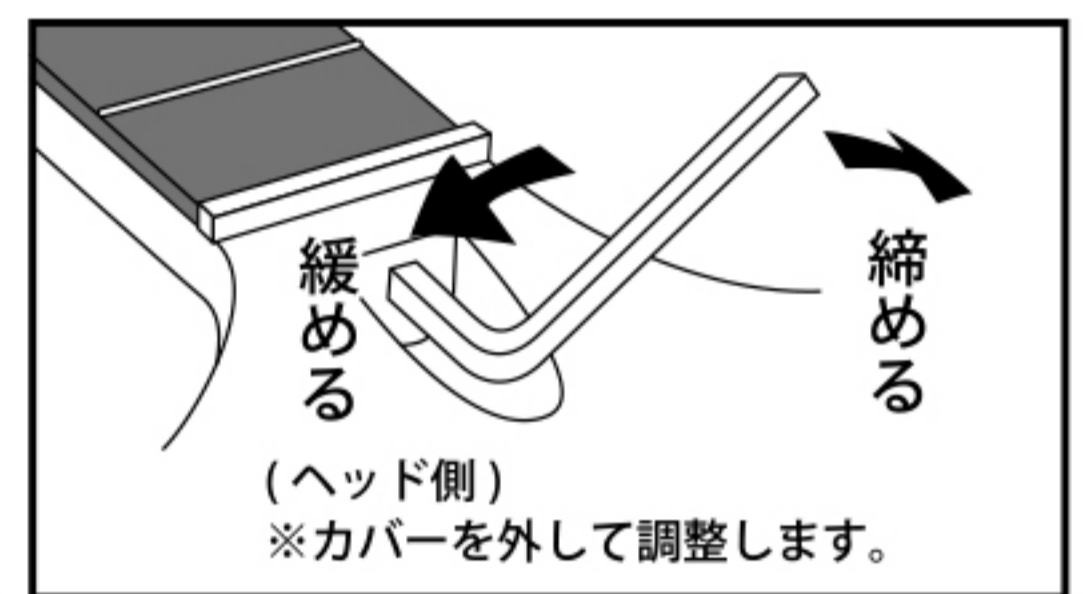
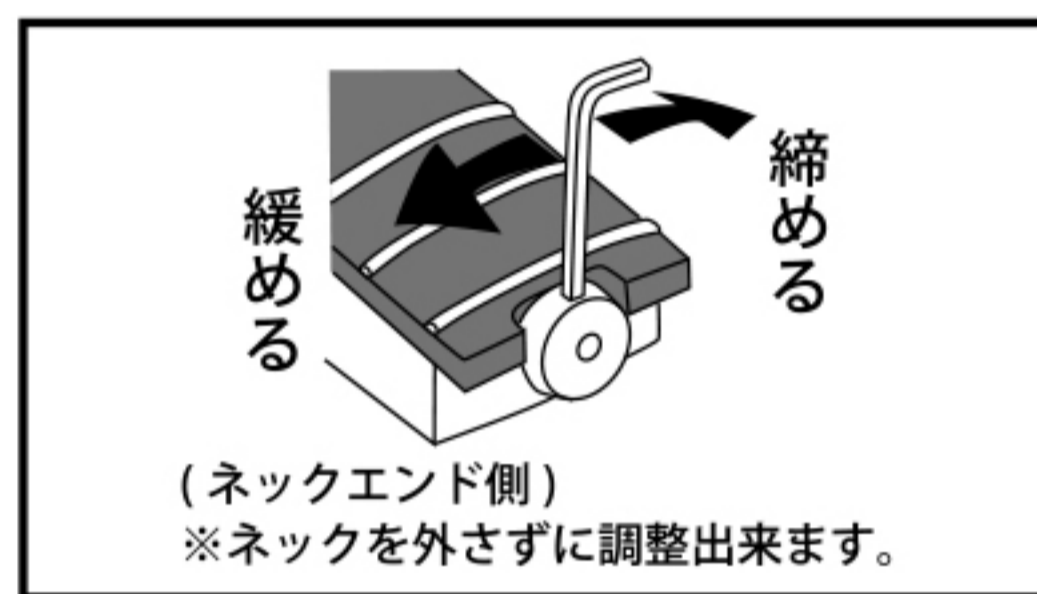
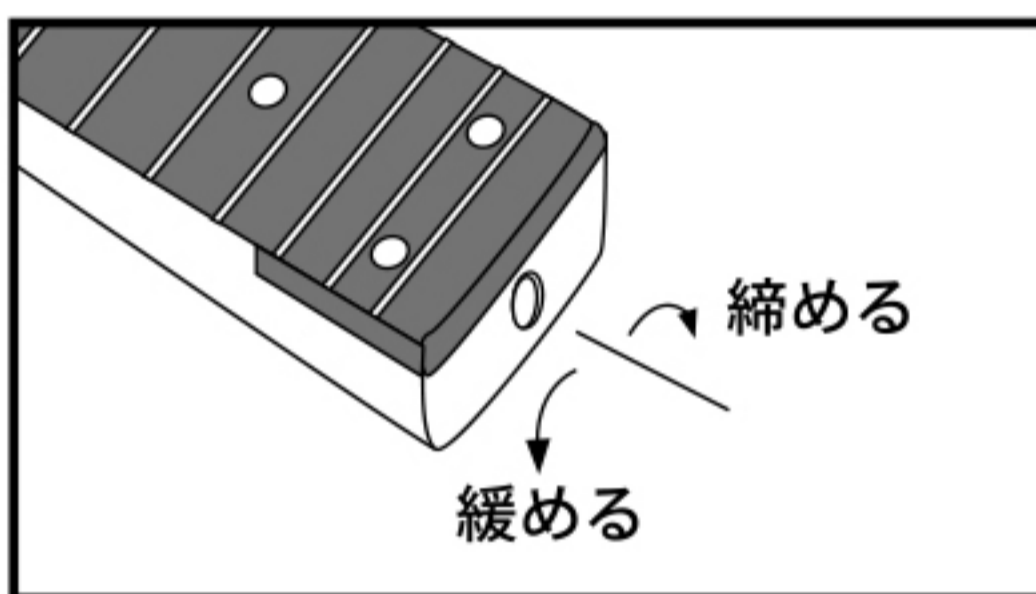
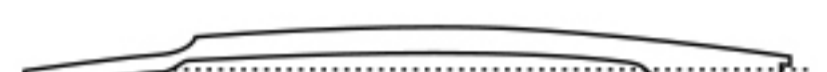
◎ヒールカットを採用しているギターは、ビスの長さが異なるので注意してください。
※ネックの調整には十分な注意が必要です。アジャストナットが上手く回らない時や正しく調整できない場合は、無理な調整は避け、お買い求めの楽器店か弊社にご相談ください。

ネックの反り

順ぞり



逆ぞり

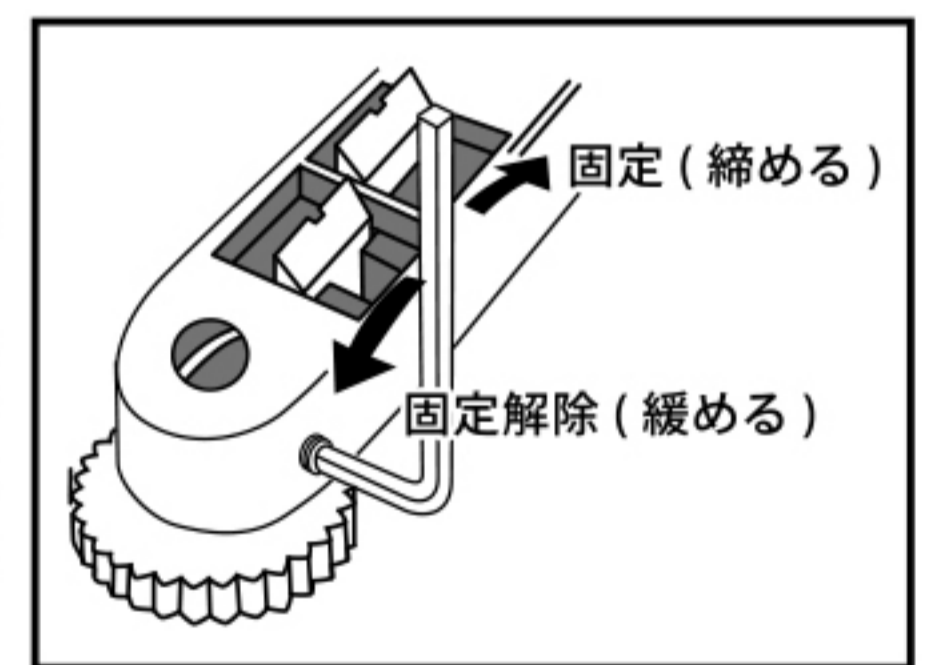


★弦高調整について

◎弦高とはフレットと弦とのスキマのことを示します。特に弦を押さえた時の演奏性に大きく影響しますので、正しいネックの状態できちんとチューニングを行ってから、フレットと弦のすき間を計って判断します。最終フレット部分での弦高が一般的な目安となります。弦高が高過ぎると運指が難しくなり、逆に低過ぎると弦のビリつきや音づまり、サスティーンの劣化が発生します。弦高調整はブリッジ本体、または、ブリッジサドルの高さを変化させて調整します。また、ネック調整やゲージの異なる弦への交換後も弦高の再調整が必要です。

適正弦高は1フレットを押さえた状態で最終フレット上でギターの場合1弦側で弦下1.6~2.0mm、6弦側で2.0~2.5mm程度、ベースの場合で1弦側で2mm、4弦側で2.5mm程度になります。

◎ダイヤモンドシリーズ(C-1シリーズやSOLOシリーズなどのノントレモデル)やARシリーズに搭載されているTone Pros、またSD、NV、KRシリーズなどに搭載されているシェクターオリジナルトレモロにはスタッドロック機能が付いているため、弦高調整をする際はロックを解除した状態で調整してください。



★ピックアップの高さ調整について

◎ピックアップの高さを調整することでも、音量や音質の微調整ができます。ドライバーでピックアップ両側のアジャストスクリューを調整し、1フレットを押さえた状態でリアピックアップ、または、ポールピースと弦のすき間が、1弦側で2mm、6弦側で3mm程度、フロントピックアップで1弦側で3~5mm、6弦側で4~6mm程度になる状態が一般的です。しかし、ピックアップの種類だけでなく、演奏形態やアンプ側の特性によっても異なりますので、実際に音を確認しながら調整してください。

ピックアップと弦の距離が近いほど音量が増えますが、近過ぎると音ワレやピックアップの磁力による弦のビリつきの原因になります。逆に距離が遠いほど、歪みの少ないクリアな音質になりますが、高域が減少したり音量が低下してしまいます。ピックアップの出力により適正な高さは上記の数値より多少前後する事があります。

◎ポールピースの高さ調整が可能なタイプは、あくまでも各弦ごとのバランス補正として調整してください。ポールピースのタイプによって、マイナスインドライバーを使用してください。

★オクターブ調整について

◎新しい弦に交換した時やネックの調整を行った後は、すべてのフレットで正しい音程が得られるように、オクターブ調整をする必要があります。正しくチューニングし、演奏時の状態でギターを持ち、それぞれの弦の12フレットを押さえ、その時の音と12フレット上でのハーモニクス音が、おおよそ等しいかどうかを判断する方法が一般的です。ハーモニクス音を基準として、フレットを抑えた時の音が低い場合はブリッジサドルを前方(ヘッド側)へ移動させて弦長を短くします。逆にフレット音が高い場合は、ブリッジサドルを後方(ヘッド側と逆方向)へ移動させて弦長を長くします。

※正確なオクターブ調整にはチューナーが必要です。特にサドルを後退させる場合は、弦切れの原因になりますので、必ず弦をゆるめてから調整を行ってください。

★乾電池を使用するモデルについて

◎アクティブサーキット・ピックアップなど電池を使用するモデルは定期的に電池交換をしてください。電池が消耗すると音割れや音量低下などの症状がでます。

◎ジャックにシールドを差し込むことで電気回路に電源が入る構造となっているため、演奏後はシールドを抜き電池の消耗を防いでください。

★弦の交換、ペグ(トルク調整)について

◎錆が発生したり、変色したり、また、音がこもって聴こえたり、ピリつきがひどくなった時には、できるだけすべての弦を同時期に交換してください。この交換作業は、ネックにかかる力の急激な変化を防ぐために、すべての弦をいっぺんに外さずに、1本ずつ順番に張ることが理想的です。

◎異なるゲージに交換した場合は、ネックの反り具合が変化してしまうので、ネックだけでなく、弦高やオクターブ、トレモロの取り付け角度など、各部分の再調整が必要です。色々なブリッジがありますので、それぞれの調整方法に従って再調整してください。

◎弦は糸巻ポストの上から下へ2~3回、順にきちんと巻いてください。ポスト内部に弦の先端を挿入するタイプの糸巻は、あらかじめニッパーなどで弦の先端部分を切り、長さを調整してから巻いてください。

◎ペグに回転の堅さを調整するスクリュー(トルク調整)が付いているモデルは、スクリューを締め付けるほど、つまみの回転が固くなりますので、プラスドライバーでお好みの固さに調整してください。

◎粗悪な弦を使用すると、正しくチューニングできない場合もあります。また、弦がねじれていたり折れたままの状態を使うと、ピリつきやサスティーンの劣化を招く場合もありますので、あらかじめ、ねじれや折れがないことをご確認の上、良質な弦をご使用ください。

◎ヒールカットを採用しているギターは、ビスの長さが異なるので注意してください。

◎ロック式ペグは弦巻きに弦を巻く必要が無いのでポストに弦を通した後、弦を軽く引っ張った状態で裏側のダイヤルを締めてロックし、そのままチューニングしてください。あまり強くダイヤルを締めすぎると弦切れやペグ自体の故障を引き起こす原因となるため、ダイヤルの締めすぎには注意してください。

★フロイドローズブリッジの調整について

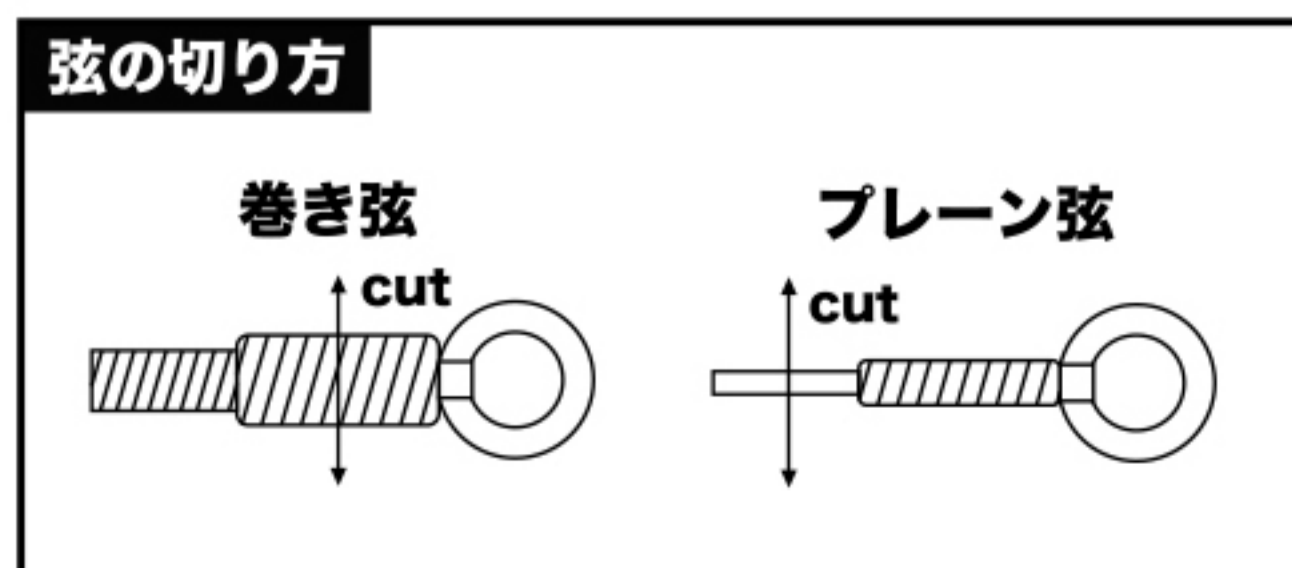
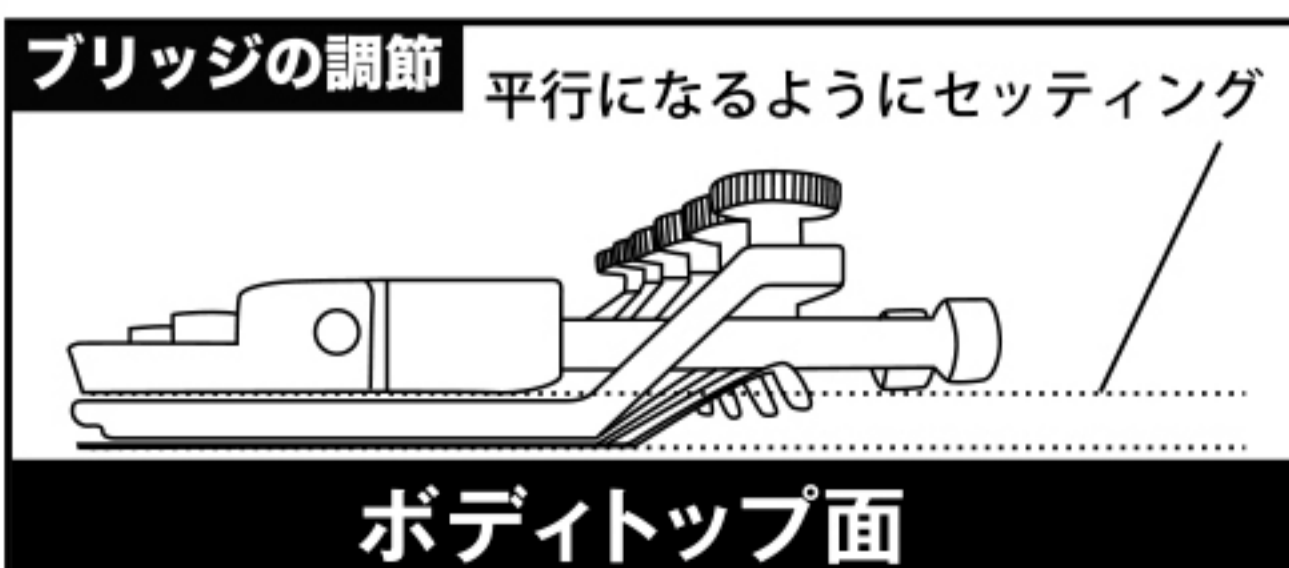
◎フロイドローズブリッジの弦高調整は、本体左右のスタッドボルトを3mmの六角レンチで回すことで、ブリッジ全体の高さを調整することができます。各弦ごとの調整はできません。

◎弦交換の後や、チューニングを変えた場合などは、ブリッジ本体がギター本体と平行になるように、スプリングハンガーのビスを動かしながら、スプリングのテンション(強さ)を調整し直してください。

◎また、ロック・ナットをロックした後でも、ファイン・チューナーによって各弦ごとにチューニングの微調整ができます。ロック・ナットをロックする前に、あらかじめ、すべてのファイン・チューナーを可動範囲の中央付近に調整しておくことがポイントです。

◎弦をロックする際に強くロックしすぎるとロックインサートが割れる原因になります。付属の3mmのレンチで締める際に硬くなったなと思ったところから1/4回転程度の締込みで十分ロックできます。

◎ボールエンド側をカットするときは図を参考にカットしてください。



■トラブルシューティング

症状	原因・対処法
音が出ない 音が小さい	<ul style="list-style-type: none"> ●配線材やピックアップが断線または断線しかけている。 →はんだのつけ直しや新しいものに交換する必要があるためお近くの楽器店等に相談することをお勧めします。 ●ポットやジャックが緩み、ボディの導電塗料などに触れてショートしている。 →ポットやジャックを適切な向きに直し、ナットをしっかりと締める。 ●電池を使用するモデルの場合、電池が消耗している。 →電池を新しいものに交換する。
ガリが出る	<ul style="list-style-type: none"> ●ポットまたはジャックにサビや汚れがたまり、接触不良を起こしている。 →接点復活剤を使用してみる。それでも直らない場合は新しいものに交換する。
ノイズが多い	<ul style="list-style-type: none"> ●アース線が断線・断線しかけている。 ●ピックアップやポットなどの不良 →はんだのつけ直しや新しいものに交換する必要があるためお近くの楽器店等に相談することをお勧めします。 ●コーティング弦を使用している。 →コーティングによりアースが流れにくくなっているため、コーティング弦でないものを使用する。
ビビリが多い	<ul style="list-style-type: none"> ●ネックの反りが適正でない。 →トラスロッドを調整して適切な状態にする。(本紙「★ネックについて」参照) ●弦高が低すぎる。 →適正な高さまで弦高をあげる。(本紙「★弦高調整について」参照) ●ナットの磨耗により溝の高さや形状が適切でなくなっている。 →2, 3フレットの間を押さえた状態で1フレットと弦の隙間を見ます。このとき弦とフレットがくっついてしまっている場合はナットが低くビブリの原因となるためナット交換が必要です。またナットの溝の形状が使用している弦に合っていない場合もビブリや空鳴りの原因となります。この場合は溝を適切な状態に直すとビブリがおさまります。しかしナットの修理には技術と知識が必要となりますのでお近くの楽器店等に相談することをお勧めします。 ●フレットやネックが波打っている。 →フレット浮きやネックの波打ちなど修理が必要な状態であるため、こちらもお近くの楽器店等に相談することをお勧めします。
ピッチが合わない	<ul style="list-style-type: none"> ●オクターブ調整が適切でない。 →オクターブ調整をする。(本紙「★オクターブ調整について」参照) ●ナットの磨耗により0フレット位置にズレが生じている。 →ナット溝の修正やナット交換が必要となるため、お近くの楽器店等に相談することをお勧めします。
弦高が下げられない	<ul style="list-style-type: none"> ●スタッドロックがかかっている。 →シェクターオリジナルトレモロや Tone Pros. の場合はスタッドロックがかかっていることがあります。ロックを解除した状態で下げてみましょう。 (本紙「★弦高調整について」参照)

■出荷時の弦のゲージについて

SCHECTER JAPAN 製品	FRT搭載モデル	.009 ~ .042
	その他(シンクロ、T.O.M、 ウィルキンソントレモロ等)	.010 ~ .046
	ベース	.045 ~ .105(5弦→.130)
	裏通しタイプ(CB-1 など)	.045 ~ .105(5弦→.130) ※スーパーロング弦
ダイヤモンドシリーズ	ギター	.010 ~ .046
	ベース	.045 ~ .105(5弦→.130) ※スーパーロング弦